

ブレスト・インプラントによる乳房再建術を受けた患者様

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会からの通達についてのお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥のことと存じます。

この度、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会より、BIA-ALCL(ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫)についての通達(添付いたしましたので、ご参照ください)がございましたので、当該手術を受けられた患者様にお知らせいたします。

BIA-ALCLの多くはブレスト・インプラント挿入術後5-10年後以降に漿液腫(再建乳房に液体がたまる)で発症しますが、被膜拘縮(乳房の引きつれ)やインプラント周囲の腫瘍で発見された例もあります。早期であればインプラント摘出にて治癒する場合があります。無症状の患者様に特別な治療や検査が必要になるわけではございませんが、今まで通り、年に1回程度の乳房超音波検査は受けていただきたくお願いいたします。また、添付通達のとおり、しこりや腫れなどの異常を感じ場合には、速やかに受診してください。

いずれにいたしましても、当該手術を受けられた患者様におかれては、可能であれば、まずは当院を一度、受診されますよう、お勧めいたします。

敬具

平成29年10月13日

埼玉医科大学国際医療センター
乳腺腫瘍科 診療部長 大崎昭彦
形成外科 診療部長 横川秀樹
病院長 小山 勇

診療のご予約は包括がんセンター外来までお電話ください。

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
包括がんセンター外来 042-984-0475
(受付時間日祝を除く 8時半-17時)

ブレスト・インプラント(ゲル充填人工乳房)による乳房手術を受けた(受ける)方へ

海外ではすでに報道されていますが、最近、アメリカ食品医薬品局(FDA、日本の厚生労働省に相当)が乳房再建術や豊胸術後に生じるブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫(Breast Implant Associated-Anaplastic Large Cell Lymphoma (BIA-ALCL))という疾患についての情報を公開しました。

この疾患はT細胞性のリンパ腫と呼ばれるもので、乳がんとは異なります。極めてまれな疾患ですが、治療が可能です。通常は、インプラント周囲に液体が貯留し腫れてくることではじまる病気です。表面の性状がザラザラ(textured surface)のインプラントを使用した例で多く報告されています。

日本およびアジアではまだ報告はありませんが、海外では数千個に1例とする報告から3万個に1例とする報告まで様々です。

FDAはインプラントの抜去を推奨しているわけではありません。

FDAは、無症状またはほかに異常のない場合、インプラントの予防的抜去は推奨していません。しこりや腫れがないかを自分でチェックするように推奨しています。異常を感じた場合は、すぐに受診してください。我々はそれに加えて定期的な診察をするのがよいと考えております。定期的な診察により、必要な検査を追加したり治療を行うことができます。

万が一、BIA-ALCLを発症してしまった場合でも、ほとんどの場合はインプラントとその周囲の組織を切除することで治癒するとされています。

一部には追加の治療が必要になる方もいらっしゃいますが、発見が遅い場合にそのようなことになる可能性が高くなります。

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

(事務局 e-mail: jopbs-office01@shunkosha.com)

日本形成外科学会

日本乳癌学会